

が全体の80%を占めている。

- 玄関……共にドアが非常に多く、成城町では古い家の多い割にドアが多い。
- 車入れ……これは単に有無を調べただけであるが、共に70%以上の住宅にあり、現在の住宅地としては非常に高い数字と思われる。
- 塀、垣……塀や垣の種類は様々であるが、共に大谷石の使用が目立ち、また成城町では生け垣など緑が大変豊かである。

河北潟周辺における農業

千 秋 俊 枝

季節風の影響が強く、冬は雪の中に閉じこめられる北陸では、春は雪どけ水が得られ、夏は高温多湿であるという気候的条件が、従来から水稲単作中心の農業を發展させ、又冬の農閑期に他の産業に従事する農家の兼業化を進めていた。水田率は80%以上と高く、多額の費用を投入して高収量をあげる集約経営で、早生種の栽培が多い。北陸の中でも石川県は、平均経営規模は新潟県に比べて小さく、藩政以来の伝統を基盤に繊維、機械を中心に、農村内にも地場産業がよく発達し、金沢市の存在もあって、兼業化が最もよく進み、95%で、種類も恒常的な雇われ兼業が多い。

金沢市の北に接する河北潟は現在はその3分の2が干拓により陸化されたが、その東の湖岸平野は非常に低湿で、かつてはしばしば水害を被ったが、現在は改良されている。ここは農業の占める比重の高い農業地帯であるが、昭和25～35年にかけては、石川県平均に比べて兼業化は進んでおらず、むしろ新潟県に近い。35～40年にかけて急激に兼業化が進み、45年には専業農家の比率は2.7%になってしまった。兼業の深化の程度は新潟県と石川県の間あたりに位置し、農業に対する意欲の点では石川県の中ではそれ程低くはなく、農業をある程度の水準に維持しながらの「総兼業化」をしている。

河北潟東岸平野上の森・川尻・大場の3集落を比較すると、経営耕地規模の大小がそのまま兼業化の進み具合と結びつき、中でも金沢に最も近く、生活も都市的性格を強く帯びてきている大場は、第2種兼業が54.7%（45年）を占める。経営耕地規模が最も大きく、金沢から一番離れている森は、最も農業を主体とする傾向が強く、第一種兼業が75%で、農業をある程度の水準に維持し

たまま急激に総兼業化した良い例である。川尻は、かなり農業が占める位置は高いが、森よりは兼業化が進んでいる。兼業の種類は雇われ兼業が主で、森は人夫日雇が多く、大場は恒常的な勤務が多く、川尻はその中間である。この地域では、津幡から北へかけて零細規模の繊維工業が多く、鉄工所も一円に分布し、30分以内で通勤ができる範囲内に工場があり、農業外の職場に困らない。

兼業化を進める様々の要因のうち、農業内の要因として経営耕地規模の大小が極めて重要と思われる。これはそのまま農業を主体とする傾向の強弱を結びつき、農業労働力の質をも決めるもので、それらは兼業の種類を選択している。農業外的要因としては、まず消費生活の向上があげられ、これは近辺に都市的な性格を帯びるものがどの程度存在しているかが非常に大きい。又農村内に地場産業が発達しているということも大きい。しかし北陸の様に、全国水準に比べて工業が遅れをみせている地域では、ある程度に農業を維持していく必要があるため兼業化がかえって進むものと思われる。

東京の都市公園の地理学的研究

武井淑江

本論文は東京都、特に23区部を対象地域として、都市公園を全般的に考察したものである。

目次(論文構成)

第一部 概観, 第一章 公園の定義・分類, 第二章 東京の都市公園, 第三章 公園の歴史, 第四章 東京の公園の歴史

第二部 公園の地理, 第一章 対象公園の概観, 第二章 自然環境, 第三章 公園地の変遷, 第四章 機能

要約

Iの2 東京(23区部)の一人当り公園面積の分布は、中心部に多く、周辺部に少ない。

又周辺部の中では、端の区より、中心部に接する区の方が少ない。

これは、人口密度と大河に接するか、しないかによる。

Iの3 公園の原型としては、世界各地の狩猟園やギリシア、ローマの広場などが考えられるが、